

教科		美術		科目	素描	単位数	2 単位
学年	1 年	科	美術造形デザイン科		専攻・コース		
教科書		光村図書 美術 1			副教材	適宜テキストプリントを配布	
学習到達目標		○造形表現の基礎となる描写力を習得する。形体や色彩などの造形要素を理解し、それらを正確に描写表現するための考え方や技術を学ぶ。 ○作品の密度を高め、完成へと導く為に必要な作業のプロセスや思考力を鍛える。 ○絵具や用具の特性を充分に理解し、表現に応じた使い方ができることを目的とする。					
評価の観点		○各種モチーフから与えられた情報を客観的な観察と描写をもって読み解くことが出来る ○各種モチーフの造形的相互関係や構造など、多面的な観察を追求しながら対象を正しく表現することが出来る。 ○発表・講評会を通して自身の作品と制作過程を省みると同時に、他者の作品から見てとれる特徴や表現技術などの違いを比較・検討し、自己批評することが出来る。					
期	月	学習内容・項目		学習のポイントと到達目標		備考	
前	4	○カラーチャート制作色の積層 ○カラーチャート制作色の混色 ○素描着彩Ⅰ「バゲットとレンガ」		○透明水彩絵具をはじめ、着彩に必要な用具の説明と絵具パレット制作。 ○透明水彩絵具の特性や扱い方を理解する。(水分調整・筆の使用法など)			
	5	○素描着彩Ⅰ「バゲットとレンガ」		○素描で学んだ技術・表現を基に彩色を行い、リアルな描写を目指す。 絵具を積層、混色することで生じる透明感や色の深みを実体験する。 全体像と細部を隈無く一緒に観察・描写出来る眼を養う。			
	6	○素描着彩Ⅰ「バゲットとレンガ」		○モチーフが複数になることで生じる相互関係に注意を払い、モチーフの固有色に惑わされない、光（明暗）によるトーンで対象を見つめる訓練をする。 モチーフの遠近感によるアウトラインの強弱の違いや、自然物と人工物における光の吸収、反射といった特徴ある現象の差異について良く観察する。		○発表・講評会により自身の作品を相対的に鑑賞し、客観的判断のもと長所と改善点を発見する。他者の作品から表現力、技術力、熱意、創意工夫など補足出来る箇所を見つける。	
期	7	○着彩Ⅱ「紙風船とガムテープとチェック柄の生地		○静物着彩としてモチーフの構造、形体、比率、質感、空間感、色彩感覚をトータルに掌握し、遠近法に則った客観描写（着彩）を心掛ける。 ○透明水彩絵具の特性を生かした表現をする。			
	8 9	○デッサン力強化講座（7.8 月月末実施） ○着彩Ⅱ「紙風船とガムテープとチェック柄の生地		○基本的な描写力のレベルアップ。特に台座と各モチーフとの関係性を重要視する。 ○色の透明感や響き合いに細心の注意を払い、表現の美しさと丁寧で綺麗な仕事をする為の工夫を心がけた訓練を行う。		○発表・講評会により自身の作品を相対的に鑑賞し、客観的判断のもと長所と改善点を発見する。他者の作品から表現力、技術力、熱意、創意工夫など補足出来る箇所を見つける。	

期	月	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	備 考
後	10	○着彩Ⅱ「紙風船とガムテープとチェック柄の生地 ○着彩Ⅳ「ラベル付きのビン・ボトル」	○作品の密度、プロポーシオン・文字の精緻、質感表現、絵筆のコントロールを更に磨く訓練を行う。 ○モチーフをリアルに描く技術とその過程で生じる達成感、喜びを見いだす。	○発表・講評会により自身の作品を相対的に鑑賞し、客観的判断のもと長所と改善点を発見する。他者の作品から表現力、技術力、熱意、創意工夫など補足出来る箇所を見つける。
	11	○着彩Ⅲ「ラベル付きのビン・ボトル」		
期	12	○着彩Ⅲ「ラベル付きのビン・ボトル」 ○素描Ⅰ「写真の細密模写」	○一年間の素描実習で培った技術を導入して、写真から立体感・質感・遠近感・臨場感を読み取り細密模写へと展開する。 ○意図をもって構図を決定し、自身の主題と対象に見合ったトリミングを施す。	○発表・講評会により自身の作品を相対的に鑑賞し、客観的判断のもと長所と改善点を発見する。他者の作品から表現力、技術力、熱意、創意工夫など補足出来る箇所を見つける。
	1	○素描Ⅰ「写真の細密模写」	○模写を行うことで普段の素描では埋もれている各自のタッチのバリエーションやトーンの幅を増やす。 ○完成図が見えやすい対象の課題であり、作品を完成に至らせる為の計画的プロセスとアプローチの仕方を学ぶ。	
	2	○素描Ⅰ「写真の細密模写」		○発表・講評会により自身の作品を相対的に鑑賞し、客観的判断のもと長所と改善点を発見する。他者の作品から表現力、技術力、熱意、創意工夫など補足出来る箇所を見つける。
	3	○まとめ	○1年間のおさらいを口頭で行うと同時に2年次の課題へとスムーズに進行できる為のレクチャーと準備を実施する。	○発表・講評会により自身の作品を相対的に鑑賞し、客観的判断のもと長所と改善点を発見する。他者の作品から表現力、技術力、熱意、創意工夫など補足出来る箇所を見つける。

教科		美術		科目	素描	単位数	3 単位
学年	1 年	科	美術造形デザイン科		専攻・コース		
教科書		光村図書 美術 1			副教材	適宜テキストプリント配布	
学習到達目標		基本的なモチーフのとらえ方や表現方法について学び、造形表現の基礎となる観察力と描写力を高める。					
		○基本的な、立体・色彩・質感の構造を観察・理解し、的確に表現する事ができる。					
		○描画材や用具の特性を理解し、表現に応じた使い方ができる。					
		○画面構図や作品密度など、造形表現に必要な感覚を身につける。					
評価の観点		対象を細かく観察し、自己目標を設定し、意欲的・主体的に取り組む。					
		○モチーフに適した構図を理解し、明暗の調子や筆触を構想する。					
		○モチーフの構造を正しくとらえ、立体・色彩・質感のとらえ方や表現方法に関心を持ち、筆触などを工夫し、描写することができる。					
		○自己の制作を振り返り、客観的に作品やプロセスを観察することができる。					
		○他者の表現を意欲的に観察し、以降の制作活動へ生かそうとする。					
期	月	学習内容・項目			学習のポイントと到達目標		備 考
前	4	鉛筆の削り方 鉛筆でのトーン制作			○鉛筆の削り方を覚える。芯の硬さによって力加減を調節する。 ○デッサンをするための鉛筆の使い方（角度・力加減）に慣れる。 ○炭の特徴（それぞれの濃さ・硬さ）を理解し、重ね具合によって多くのトーンを作る。 ○定規を使って 紙の中心をとり、水平と垂直の線を引く。		全体解説
	5	二点透視法 （石膏正立方体・直方体・円柱）			○パースの構造（二点投資法）を理解し、面や光による色味の違いをよく観察する。 ○構図についての説明を理解し、モチーフに適した構図で画面におさめる。 ○モチーフを正しいプロポーション（幅・奥行・高さ）でとらえ、描写する。 ○トーンや筆触を工夫して、モチーフの平面や、光の方向をあらわす。		全体解説
	6	楕円と質感 （ボトル、レンガ、ボールなど）			○石膏円柱で学んだことを生かし、質感、楕円の構造、面や光による色味の違いをよく観察する。 ○これまでの説明や制作で学びとったことから、モチーフに適した構図を考え、画面におさめる。 ○モチーフを正しいプロポーション（部分同士の円の直径のバランス・高さ・取手）でとらえ、描写する。 ○トーンや筆触を工夫して、金属の質感、平面、光の方向をあらわす。		
期	7	続き			○ガラスの質感（映りこみと周りの風景との関係）、楕円の構造、面や光による色味の違いをよく観察する。 ○これまでの説明や制作で学びとったことから、モチーフに適した構図を考え、画面におさめる。 ○モチーフを正しいプロポーション（部分同士の円の直径のバランス・高さ）と関係（本体とラベル）でとらえ、描写する。 ○トーンや筆触を工夫して、ガラスの質感（重み・映りこみと周りの風景との関係）、平面、光の方向をあらわす。		

	8	デッサン 「作業する両手」	○自分の手をモデルに、人体の構造（肘から指先までの流れ・捻じれなど）部分による肌の表情の違いや動きをよく観察する。 ○モチーフに適した構図を考え、画面におさめる。 ○手の表情から、今までどんな場面で・どのように手を使ってきたか（自分の内面）を見つめ、生き生きとした表情をとらえ、表現する。 ○手のプロポーション（肘・甲・指のバランス）と、それによる距離や空間をあらわす。質感・立体感を描写する。	作品全体講評 作品提出
	9	続き		
期	月	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	備 考
後	10	石膏デッサン面取り （ヴィーナス or アグリッパ）	○面取りから始める。 ○人体の構造・動きを理解し、石膏の立体や明暗によるトーンをよく観察する。 ○構図についての説明を理解し、モチーフに適した構図で画面におさめる。 ○モチーフを正しいプロポーションでとらえ、筆触を工夫して質感・立体感を描写する	作品全体講評 作品提出
	11	続き		
	12	次回デッサンのため 基礎課題実施		
期	1	囲み静物デッサン （多めのモチーフで構図の意切り取り方を学ぶ）	○直方体のパース、長方形のパース、円柱の構造、球体構造を理解する。面や光による色味の違いをよく観察する。 ○これまでの説明や制作で学びとったことから、量の多いモチーフに適した構図を考え、どこでトリミングするか考え、画面におさめる。 ○モチーフを正しいプロポーション（直径・幅・奥行・高さ・厚み）と大きさのバランスでとらえ、描写する。 ○トーンや筆触を工夫して、木材角柱の質感・重み、ガラスの質感・平面、布の質感・シワ、焼き物の質感・重み、球体の質感、光の方向をあらわす。 ○布の描写や、ガラス板の下の表現から、空間や広がりをあらわす。	
	2	続き	引き続き完成度を上げる。 基礎の再確認	作品全体講評 作品提出
	3	3点のモチーフ （レンガ、ボトル、球形モチーフ）	○直方体のパース、長方形のパース、円柱の構造、球体構造を理解する。面や光による色味の違いをよく観察する。 ○これまでの説明や制作で学びとった事からモチーフに適した構図を考え、画面におさめる。 ○モチーフを正しいプロポーション（直径・幅・奥行・高さ・厚み）と大きさのバランスでとらえ、描写する。 ○トーンや筆触を工夫して、それぞれの質感・重み、球体、光の方向をあらわす。 ○モチーフ間の空間や広がりをあらわす。	